

● 事業名

高大地域連携事業 KOKÔ 塾まなびの郷

ジョイント・フォーラム、20周年記念 フォーラム及び『20周年史』の発行

● 日時 2022年3月6日(日) 13:30~17:00

このほかに、年間を通して、2021年4月24日(土) 企画運営委員会、5月22日(土) オリエンテーション、12月18日(土) 合同ワークのほか、「まちづくり」「福祉」「教育」「環境」の4つのテーマ別WGに分かれの活動が行われた。

● 会場 和歌山県立粉河高等学校(情報情報教室)、紀の川市立粉川ふるさとセンター小ホールをメイン会場として、一般参加者はzoomオンライン

● 参加人数 70人(対面50人、オンライン20人)

● 主催 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹・和歌山県立粉河高等学校

● 概要

KOKÔ 塾まなびの郷は、「荒れた学校を再生して、生徒たちに本物の学びを与えたい」という学校づくりへの願いと「地域を活性化し次世代に託したい」という地域づくりへの願いを和歌山大学生涯学習教育研究センター(当時)が受け止めて、高校生を主体として地域がともに社会教育プログラムとして開発・実施されてきたものである。それは、参加者(高校生や地域住民等)が自由に意見やアイデアを出し合ってそれらをまとめ上げていく全員参加型の学びを創り出すもので、学校での授業とは異なる非学校型の教育事業であり、主な活動時間は、放課後、土・日及び長期休み中となる。

本事業は2001年の試行に始まり、2002年からは、テーマ別のフィールドワークを主としたWGを編成して、本学の専門分野の教員を指導者として年間にわたり、活動を進める。1年の流れとしては、4月に事務局会議で今年の日程や進め方を検討、5月に企画委員会を開催し、方針を決定する。6月、参加者全員によるオリエンテーションを行い、WGの所属の決定、各WG毎に年間テーマや活動内容について協議する。その後は、各WGでのそれぞれの活動が年間に渡って随時開催され、2月にその年度の取り組みの報告書の作成、年度終わりの3月にジョイントフォーラム(活動成果発表会)を開催し、成果の共有化がはかられている。

今年度は、発足から20年という節目の年となったことから、関係者による「20周年実行委員会」(代表:山口裕市)を組織し、これまでの活動の振り返り、成果とともに今後の課題を明らかにしていくために、20周年フォーラムの企画・実施、20周年史『KOKÔ 塾「まなびの郷」20周年—ほんものの学びを求めて—高校・大学・地域の連携』の発行、20年の活動記録DVDの作成を行った。

また、年度の活動については、コロナ禍にあって、思考停止にならずに、活動の方向性を探り、導きだしていくことを申し合わせて、これまで同様「まちづくり」「福祉」「教育」「環境」によるテーマ別WGが実施された。年間の活動記録については、年次報告書として発行されている。

●実施内容

I. 20周年関連

1. KOKO塾ジョイントフォーラム・20周年記念フォーラム

全体2部構成により、下記の内容で実施した。

第一部：KOKO塾まなびの郷の取り組み（2019年度の活動について生徒からの報告） 第二部：20周年記念フォーラム、鼎談：山口裕市（元粉河高校校長）、堀内秀雄（和歌山大学名誉教授）、進行を兼ねて、村田和子。 リレートーク：足立基浩（まちづくりWG指導者、経済学部教授）、船越勝（教育WG指導者、教育学部教授）、卒業生、地域関係者

2. 20周年史の編集・発行『KOKO塾「まなびの郷」20周年—ほんものの学びを求めて—高校・大学・地域の連携』、136ページ、2022年3月発行、和歌山大学、和歌山県立粉河高校

3. 20年の活動記録DVDの作成

II. 2021年度の活動

高校生を主体として下記の4つのテーマ別WGで活動を行った。

「まちづくり」（指導：足立基浩）、「教育」（指導：船越勝）、「環境」（指導：富田晃彦）、代表世話人及び「福祉」（指導：村田和子）

20年間のKOKO塾のあしあと	
年 月	主な出来事・内容
2002	まなびの郷KOKO塾試行
2003	4 5つのテーマ別WGによる本格スタート
8	滋賀県長浜市フィールドワーク（写真1.）
2004	1 アンベック夫妻による「スウェーデンの船屋」編者WG（写真2.）
8	和歌山大学生涯学習フォーラム（龍神村）で報告
9	粉河町産業大博覧会「写真3.」
12	水と自然と共生するまち滋賀県新旭町フィールドワーク
2005	8 船島船場町「だつの町並み」フィールドワーク
10	用上村環境FW（写真4.）
2006	11 第1回オープンカフェ
11	雨沢町・紀美野町飲食
2007	6 第6回和歌山環境大賞受賞 環境WGの水質調査から有機栽培にいたる取り組みを評価される 粉河町独自の環境美化基準「KOKOSOS30」策定に環境WG参加
2007	8 第47回社会教育研究全国交流集会（飯沼和幸氏）に参加 分科会「地域づくりと高校生の学び、高・大・地域連携」を粉河高校で開催
2008	3 海南市黒江公民館
7	第一回しゃべり場@学校
2010	KOKO塾（植高晴氏の提供による新たな地域拠点）（写真9.）
2011	粉河町（商工）による「高校生ガイド」の誕生（写真10.、2014年高校生ガイド）
	KOKO塾10周年ジョイントフォーラム、10周年記念オープンカフェ（写真11.）（写真12.）
	「KOKO塾10周年史」の発行 イメージキャラクター コカワ、ココちゃん誕生
2012	8 高校生防災スキルに協力
2013	3 古民家「山崎邸」一妻表の郷による再活用、KOKO塾の活動拠点に 「ESD」(Education for Sustainable Development)持続可能な開発のためのインフォーマル教育とフォーマル教育との接続、ESD+GLC世界会議(岡山)分科会において、KOKO塾の取り組みを発表し(加藤、植)、世界に類のない先進的な取り組みと評価される。
2013	10
2014	10 和歌山県主催「子ども・若者支援県民大会」で和歌山県知事から表彰、青少年の健全育成事業に寄与し、多くの成果をあげてきたことに対して表彰される。 「高校生カフェ」スタート（写真13.）
2015	第30回「教育奨励賞」努力賞 「おかまなび」(3大学連携大野地区 社会教育プロジェクト)発足
2016	粉河大学(OR.OG)による参議院和歌山選挙区公開討論会（写真14.）
2017	7 KOKO塾15周年史「高校が地域コミュニティの核に」発行 長野県ODEE長野県立高校・飯田市公民館「地域人教育」現地視察・交流（写真15.） 「粉河魂」粉河高校生による作詞・作曲 15周年記念講演「地域文化が若者を育てる」佐藤一子氏（東京大学名誉教授）
2018	12 韓国・忠清南道教育庁奨学士視察団「学校と地域の連携」
2019	1月 特別事業「益継り復活プロジェクト」(写真16.） しゃべり場@トレイン（写真17.）、単いず体験（写真18.）
2021	3 新型コロナウイルス感染症を受け、高・大・地域連携ジョイントフォーラム(ハイブリッドにて開催) 講演：「ドイツの高校生企業」高尾純子氏(フェリス学院大学)

目次

写真で綴る20年

20年間のKOKO塾のあしあと

ご挨拶

和歌山県立粉河高等学校 校長 児 玉 恵美子……………3

KOKO塾「まなびの郷」20周年に寄せて

実行委員長 山 口 裕 市……………4

まなびの郷づくりに託した願い

和歌山大学 教授 村 田 和 子……………5

KOKO塾前史に関する座談会記録……………6

【座談会用資料】

KOKO塾「まなびの郷」始まりとその後

山 口 裕 市……………29

「教員生活を振り返り、もう一度「ほんものの学び」を問い直すために」

粉河高校 教諭 横 出 加津彦……………32

コラム

ESD (Education for Sustainable Development) :

持続可能な開発のためのインフォーマル教育とフォーマル教育との連携

(世界会議 in 岡山)にて (2013年、報告)

元和歌山県立粉河高校 教諭 加 藤 と も こ……………59

【寄 稿】

卒業生からのメッセージ……………60

KOKO塾教職員からのメッセージ……………74

地域の皆さんからのメッセージ……………88

和歌山大学教員からのメッセージ……………97

特別寄稿……………111

資 料……………119

図1.KOKO塾20周年史より

事業に関するお問い合わせ

生涯学習・リカレント教育推進室

E-mail : lifelong@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/lifelong-learning/business/lifelong/koko-cramschool.html>

